

# 事故防止のポイント



9 子どもに交通ルールを教えていますか。

信号の変わり際に横断歩道を渡って車と接触したり、ボールを追って道路に飛び出しひかれてしまったり、子どもは遊びに夢中になってしまうと、周囲に注意を払うことがなかなか上手できません。



交通ルールを子どもに教える。  
道路を歩くときは手をつなぎ、大人は車道側を歩く。  
三輪車や自転車は車が通らないところで乗るように指導する。

11 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かない所に置いてありますか。

子どもは大人のまねをしたがり、引き出しに入っている薬も取り出して誤飲してしまいます。好奇心が強く、トイレ用洗剤、カビ取り剤、漂白剤など無造作に置いておくと誤飲する危険があります。誤飲の場合、吐かせていいものと悪いものがあるので、まず何を飲み込んだか落ち着いて判断することが必要です。



薬は手の届かないところに置き、不要になったものは捨てる。  
薬入れにお菓子の空き缶などを使わない。  
化粧品や洗剤は棚の中に保管する。

13 子どもだけで川や池で遊びに行くことがありますか。

外で友達同士で遊ぶことが多くなるので、住まいの近くの池や川、浄水槽や防火槽など子どもが落ちる危険がある場所がないか確認しておきましょう。浅瀬でも流れがあると、バランスを崩して転ぶと簡単に立ち上がれません。

普段から川や池、水槽など近づかないよう注意しておく。

15 あめ、こんにやくゼリー、おもちゃなどをあげるとき、喉に詰まらせないように注意していますか。

あめを喉に詰まらせたり、食べ物が飲み込めないで喉につかえてしまったりします。子どもの喉はまだ未発達なので、気管に物が入りやすく、落ち着いて食べないと窒息してしまいます。



食べ物は硬さや大きさ、口の中に入れる量を考え、ゆっくり食べさせる。

10 ストープやヒーターなどは安全柵で囲い、子どもが熱い物に触れないようにしていますか。

転倒してストーブに手をついてしまったり、フライパンやなべの取っ手に触れてこぼしてしまったり、食事の準備をしている台所も子どもにとっては危険な場所のひとつです。

熱いものを触るとやけどをすることを教える。  
ストーブやヒーターなどは安全柵で囲い使用する。  
台所のコンロの上の鍋やフライパンの取っ手には触れさせない。

12 子どもが鼻や耳に小物を入れて遊んでいることがありますか。

子どもはビーズやプラスチックの玉、小さなブロックやお菓子などをおもしろ半分鼻や耳に詰めて遊ぶことがあります。異物が詰まって取れなくなり、思わぬ事故に至ることもあるので注意が必要です。特に鼻から入ったものは、長時間そのままにしておくと鼻の中の粘膜に炎症を引き起こします。



子どもが鼻や耳に入れる小物がないうよう、部屋の中は整理整頓をする。

14 水遊びをするときは必ず大人が付き添っていますか。

水遊びは子どもを開放的な気分させる遊びですが、子どもはわずかな水深でも溺れてしまいます。浅瀬だから、庭のビニールプールだからと安心して目を離すと大変危険です。

水遊びをするときは必ず大人が付き添う。  
ビニールプールは遊んだ後は必ず水を流してふせておく。

16 子どもを自転車の補助いすに乗せたまま手を離したり、そばを離れることがありますか。

自転車の補助いすに子どもを乗せたまま立ち話などでちょっと手を離している間に自転車が倒れる事故があります。倒れたひょうしに子どもが道路に投げ出され自動車にひかれることもあります。また、急ブレーキをかけた時に子どもが飛び出さないよう、安全ベルトを使用しましょう。

子どもを乗せた自転車から手を離さない。

17 車の発進・車庫入れ・乗り降りのおきには、子どもの安全を確認していますか。

子どもが車の前後にいることに気づかず、車を発進やバックさせ、子どもをひいてしまう事故が起っています。また、車の乗降時に先に降りた子どもが走ってきた車にひかれるといった事故も起っています。

車の発進・車庫入れ・乗り降りのおきには、周りの状況に気を付け、子どもの安全を確認する。  
日ごろから子どもに車のまわりで遊ばないように教える。